

考えよう「ふくし」と「しょうがい」

社協の福祉学習～真龍小学校5学年～

厚岸町社協では、町内の小中学校を対象に、福祉とは何かを学び、福祉体験を通じて他者への理解を深めることを目的に、各学校へ出向きさまざまな福祉体験学習を行っています。



車イス体験学習のながれ～

①車いすの説明

安全に操作するため、車いすの各部名称や操作方法を知り、心地よく乗るためにはどうしたらよいか考えます。

車いすは、移動手段でもあり人とのコミュニケーションツールの一つでもあります。コミュニケーション方法は、日常生活の中でも実践できるのでぜひ活用してほしいと思います。



フットレストに足を乗せる場合は、急に動かすとケガをしてしまう場合があります。足裏を支えゆっくりと動作を行うことが大切です。

②乗ってみよう 動かしてみよう

操作方法を学んだ後は、ペアになり体験コースを回ります。①障害物まで自走し進む②障害物の前で介助者に援助を依頼する③介助してもらい障害物を超える④角を曲がって障害物を回避するの4コースです。

車いすは目線が低くなるので、スピードの感じ方や後ろから話しかけられるとびっくりするなど、体験を通しての学びがありました。



障害物を超える時は、テコの原理を利用し、ティッピングレバーを軸にし、前輪を少し浮かせて押し進みます。

③ふくしとは幸せ

あなたの周りに困っている障がい者がいたらどうしますか？障がい者だから助けるといった方がもしいたら、心のバリアを取り除いてください。心のバリアとは、障がいがあるから「〇〇できない」と思うこと。しかし、できない事があるのは皆同じです。ぜひ明日から、心のバリアを取り除いた生活ができたらいいなと思います。

福祉とは幸せという意味。全ての人が幸せになるよう、福祉の心（優しさ、思いやり）を持てる人になってほしいと思います。

【注】新型コロナウイルス感染対策を施し体験学習を行いました。